

日衛連

JAPAN HYGIENE PRODUCTS
INDUSTRY ASSOCIATION
発行／社団法人 日本衛生材料工業連合会

紙おむつNews

No.59

2007.6

特集
Feature Articles

特集 排泄ケア用品の需要予測を見直し

～2007年から2011年までの5年間～

(社)日本衛生材料工業連合会では、昨年5月に2006年から2010年までの紙おむつや軽失禁パッドなどの需要見直し(日衛連紙おむつニュースNo.55参照)を行いました。

今年4月に2006年実績がまとまったのを機会に、それを算出根拠として昨年公表した向こう5年間の需要予測の見直しを行いました。

特に、最近マーケットが拡大している軽失禁用パッドについては、統計自体が2004年からとデータの蓄積が少なく、昨年公表の予測値は参考データであったものを、今回2004～2006年の実績をもとに改めて試算・公表しました。

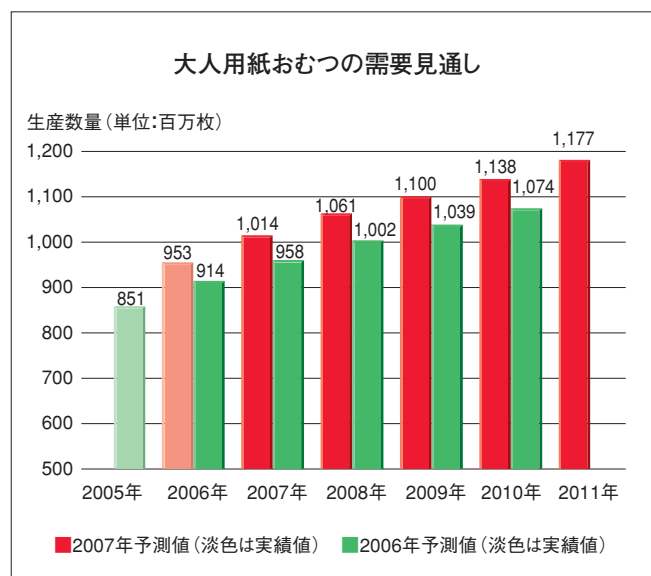
● 大人用紙おむつ

2007年予測は紙おむつの需要予測は上方修正

腰の部分をテープで止めるテープタイプの紙おむつと、下着のようにはいて使用するパンツタイプの紙おむつを合わせた大人用紙おむつの需要見直しを示したのが右のグラフです。今回の需要予測(赤色)が2006年版予測(緑色)よりも上回っていることが分かります。

これは、2006年の生産実績が予測値よりも4.2%上回り、それを基準に2007年以降の試算を行ったことによるものです。

その他にも2006年版では1枚当たりの紙おむつの重量を99.5g、1日の使用枚数を1.7枚として計算していましたが、2007年版の予測では2006年実績に基づき、それぞれ99.0g/枚、1.8枚/日として計算しています。その結果、2010年の予測値では、



2006年版の推計値10億7,400万枚に対し、2007年の推計値は11億3,800万枚とおよそ6%増えています。

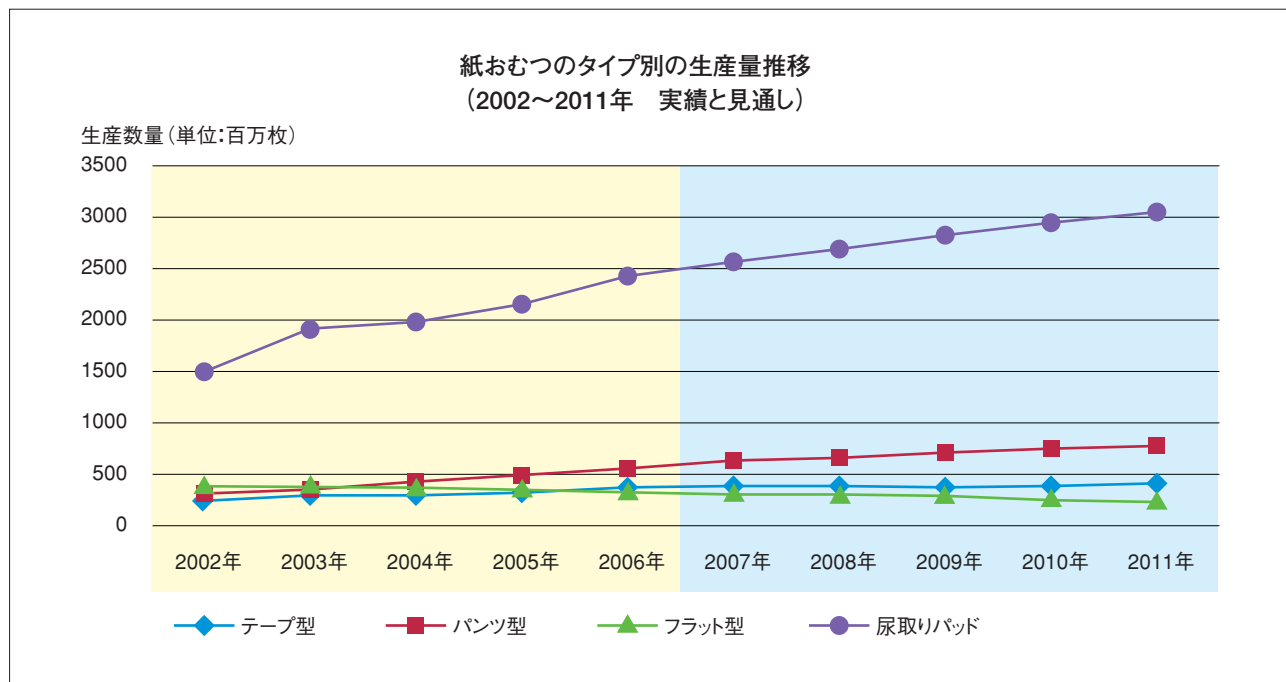
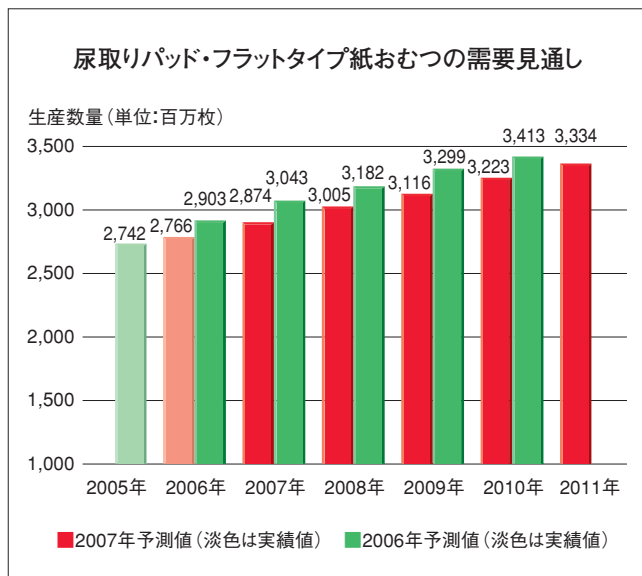
一方、主に紙おむつと併用して使用する尿取りパッドと、主におむつカバー等と併用使用するフラットタイプの紙おむつを合わせた需要見通しは、2006年版予測に比べてやや低い伸び率となりました。

2006年版の予測値が29億300万枚でしたが、実績は27億6,600枚でした。

フラットタイプの紙おむつはここ数年の傾向に沿って微減でしたが、尿取りパッドは2006年実績でも対前年比113%と着実な伸びを見せています。

また、1枚当たりの重量、1日当たりの使用枚数が2006年予測では45.7g/枚、5.4枚/日であったものを、2007年版の予測では2006年実績に基づきそれぞれ46.7g/枚、5.1枚/日に変更しています。

下に紙おむつのタイプ別並びに尿取りパッドの2002年から2011年までの10年間の実績と見通しをまとめたグラフを示します。



大人用紙おむつの市場見通しデータ

	実績	需要予測				
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
対象人口(千人)	1,796	1,860	1,922	1,981	2,037	2,095
転換率(%)	82.0	83.0	84.0	84.5	85.0	85.5
紙おむつ (パンツタイプ+テープタイプ)						
生産枚数(百万枚)	953	1,014	1,061	1,100	1,138	1,177
生産重量(トン)	94,310	100,413	105,011	108,878	112,619	116,507
重量(g) / 枚	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0
使用枚数/日	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
尿取りパッド・フラットタイプ						
生産枚数(百万枚)	2,766	2,874	3,005	3,116	3,223	3,334
生産重量(トン)	129,223	134,206	140,350	145,519	150,518	155,715
重量(g) / 枚	46.7	46.7	46.7	46.7	46.7	46.7
使用枚数/日	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1

対象人口：2002年日本医師会委託調査研究による在宅・在院の寝たきり老人推計(要介護者数)を採用。あわせて、65歳未満で紙おむつを必要とする20万人を加算した。
 使用枚数：2006年日衛連生産統計に基づき、今後の1人の1日あたりの平均使用枚数をテープ型・パンツ型を1.8枚、フラットタイプ・尿とりパッドを5.1枚と予測。
 重量/枚：2006年日衛連の生産統計に基づき、1枚当りの平均重量をテープタイプ・パンツタイプの紙おむつを99.0g、フラットタイプ・尿とりパッドを46.7gで算出。
 転換率：2006年日衛連の生産統計に基づき算出。2006年以降はそれに基づく予測。

● 軽失禁用パッド、ライナー

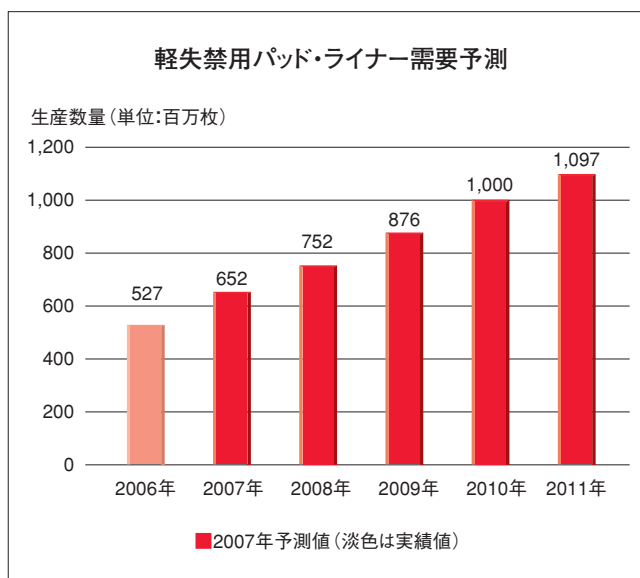
2006年実績を加味して需要予測を更新

2006年の需要予測から、新たに加わった「軽失禁用パッド・ライナー」分野は、2004年から尿取りパッドから分けられて新たな分野として独立して統計処理が始まりました。

軽失禁は経産婦の30%が経験しているといわれ、また、40万人いるといわれる男性の前立腺肥大症、さらに排尿機能のみ支障がある高齢者の増加などを背景に、毎年マーケットが急拡大しています。

昨年発表した2006年版の需要予測は2004年から2005年への1年間のみの伸長率を基に算出しており、あくまでも参考の域を出ないものでした。

2007年版の需要予測では、2004年から2006年の3年分のデータを基に新たに算出しました。需要予測では2006年実績5億2,700万枚に対し、2011年には2.1倍の10億9,700万枚に増加すると予測されました。



軽失禁用パッド+ライナーの需要予測

	実績	需要予測				
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
対象人口(千人)※1	17,392	17,405	17,403	17,386	17,359	17,316
使用率(%)※2	0.0	13.0	15.0	17.5	20.0	22.0
生産枚数(百万枚)	527	652	752	876	1,000	1,097
生産重量(トン)	5,552	6,842	7,894	9,201	10,499	11,520
重量(g)／枚	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5
使用枚数/月※3	24	24	24	24	24	24

※1 対象人口 20歳～79歳 女性(国勢調査2000年から推計)に失禁経験率 3人に1人より推定。

あわせて、厚生労働省統計患者調査(平成14年版)前立腺肥大症の患者数約40万人を加算した

※2 使用率=生産枚数/(対象人口×使用枚数×12)×100

※3 使用枚数/月 1日約1枚と考え、月経期間中・前後の生理用ナプキン、パンティライナー使用日を除いて20枚/月と推定

※1 対象人口の算出根拠

(千人)	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
女性人口(20歳～79歳)	49,977	50,014	50,009	49,958	49,880	49,753
女性人口(20歳～79歳) 3人に1人	16,992	17,005	17,003	16,986	16,959	16,916
男性対象者(前立腺肥大症患者数)	400	400	400	400	400	400
女性3人に1人+男性対象者	17,392	17,405	17,403	17,386	17,359	17,316

※3 1ヵ月の一人当たり平均使用枚数算出根拠

		女性A	女性B	男性	総使用枚数 (千枚/月)	
①	使用枚数算出対象者	月経有女性(20～55歳)	閉経女性(56～79歳)	前立腺肥大症患者数		
②	対象人口算出根拠	失禁者は対象人口の1/3と推定				全員
③	対象人口(千人)	10,318	6,654	400		
④	使用枚数/月	20(月経期間中を除く)	30	30		
⑤	③×④(千枚/月)	206,360	199,620	12,000		417,980

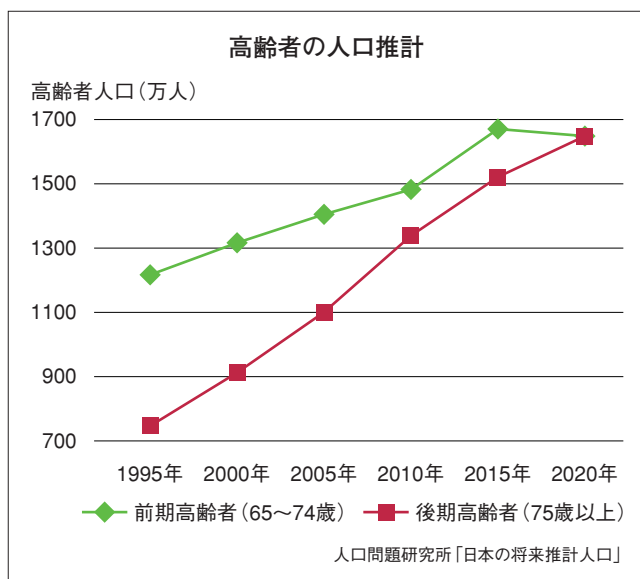
一人当たり平均使用枚/月=総使用枚数(千枚/月)÷対象人口=417,980÷17,372≒24枚/月

高齢者の増加に伴って今後も増える大人用排泄ケア用品

以上ご紹介してきたように、大人用紙おむつ、尿取りパッド、軽失禁用パッドなどの需要は、我が国の高齢者数の増加と深いかわりを持っています。

統計では2025年まで、我が国の65歳以上の高齢者は増加を続けるとされており、健康で活動できるものの、排泄機能のみに支障が出やすい65歳から74歳の前期高齢者の増加、さらに紙おむつ使用の確率が高くなる75歳以上の後期高齢者の大幅な増加が見込まれています。

このような中において、紙おむつ業界の果たす役割は社会的にもますます重要になるものと考えています。より使いやすく、身体機能を補完する製品を提供し、快適で生きがいのある老後の暮らしのお手伝いをしてまいります。



● 乳幼児用紙おむつ

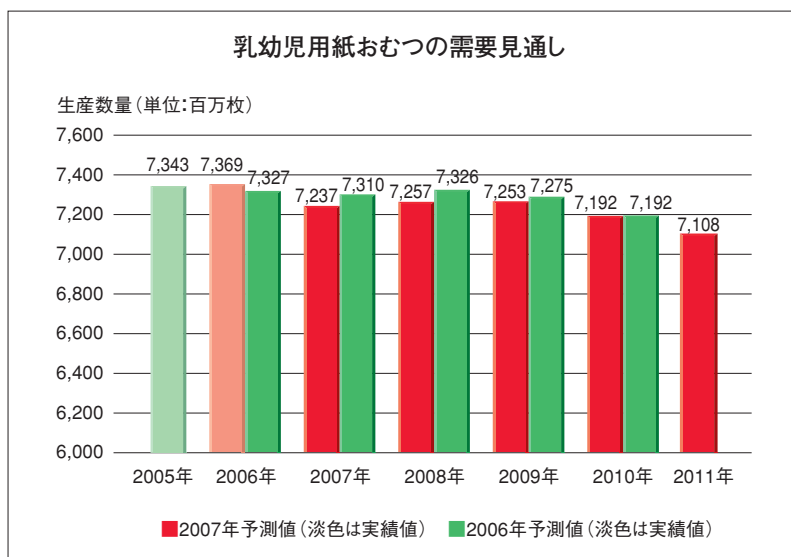
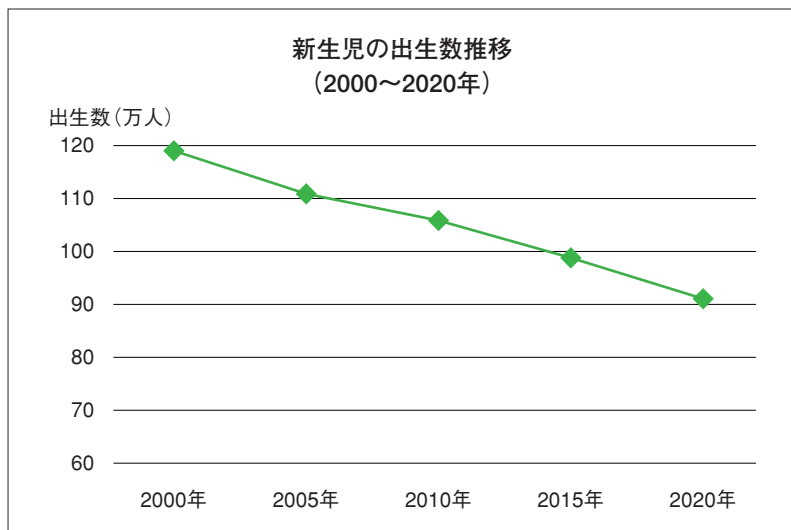
高月齢の使用率の上昇で、少子化の環境でも微減にとどまる

乳幼児用紙おむつのマーケットは、毎年新生児の減少が続くという環境の中で意外に健闘しています。

2006年版の実績は73億6,900万枚で、2006年版需要予測の73億2,700万枚を上る結果となりました。これは、紙おむつの使用月齢が伸びる傾向にあり、結果として紙おむつの使用人口の減少に一定の歯止めがかかっているようです。

新生児の減少は2020年には対2000年比で76%にまで減ると予測される中で、乳幼児用紙おむつの需要は微減にとどまるものと予測されています。

また、2007年版の需要予測では、2006年の実績に基づき、1枚当たりの平均重量を2006年版に使用した36.7gから36.4gに変更しています。



乳幼児用紙おむつの需要予測

	実績	需要予測				
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
対象人口(千人)	3,635	3,621	3,627	3,618	3,576	3,527
転換率(%)	94.3	94.4	94.5	94.7	95.0	95.2
生産枚数(百万枚)	7,369	7,237	7,257	7,253	7,192	7,108
生産重量(トン)	268,410	263,428	264,144	264,022	261,784	258,716
重量(g)／枚	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4
使用枚数／日	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8

対象月齢：0～40ヵ月。従来は36ヵ月であったが、高月齢での使用率があがってきているため40ヵ月と設定。
 対象人口：平成19年以降は国立社会保険・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成14年1月発表)の出生数の中位推計値を採用。平成19年以前は厚生労働省・人口動態総覧の年次推移の出生数を採用。平成18年までは確定値、平成19年からは推計値。
 重量／枚：平成18年日衛連生産統計に基づき、今後の1枚あたりの平均重量を36.4gと算出。
 使用枚数／日：平成18年日衛連生産統計に基づき、今後の1人の1日あたりの平均使用枚数を5.8枚と予測。
 転換率：平成18年は日衛連の生産統計に基づき算出。19年以降はそれに基づく予測。

紙おむつ・ライナー生産数量（日衛連調べ）

〈単位：トン、千枚〉

		平成17年		平成18年		平成19年								
		年計	前年比%	年計	前年比%	1~3月	前年比%	4~6月	前年比%	7~9月	前年比%			
紙おむつ	大人用	（パンツタイプ）	テープ型	千枚	351,432	109	386,045	110	91,262	102				
			トン	45,327	109	49,055	108	11,647	102					
		パンツ型	千枚	499,119	116	567,128	113	146,700	107					
			トン	39,320	109	45,255	115	11,364	104					
		合計	千枚	850,551	113	953,173	112	237,962	105					
			トン	84,647	109	94,310	111	23,011	103					
	フラット型	千枚	364,102	96	345,074	95	76,849	90						
		トン	25,363	95	23,886	94	5,248	88						
	（パッド型／その他）	尿とりパッド	千枚	2,136,571	108	2,420,682	113	619,425	114					
			トン	90,681	107	105,337	116	27,061	115					
		軽装パッド （髌墊ライナー）	千枚	431,820	150	527,433	122	163,422	126					
			トン	4,694	133	5,552	118	1,594	109					
		合計	千枚	2,568,391	113	2,948,114	115	782,847	117					
			トン	95,375	108	110,888	116	28,655	115					
	合計	千枚	3,783,044	111	4,246,361	112	1,097,658	112						
		トン	205,385	107	229,084	111	56,914	107						
	乳幼児用	（パンツタイプ）	テープ型	千枚	3,687,071	109	3,698,758	100	943,523	114				
			トン	118,970	108	117,132	98	29,371	110					
パンツ型		千枚	3,656,097	114	3,670,116	100	951,038	111						
		トン	150,571	106	151,278	100	38,848	109						
合計		千枚	7,343,168	112	7,368,874	100	1,894,561	112						
		トン	269,541	107	268,410	99	68,219	109						
合計	千枚	11,126,212	112	11,615,235	104	2,992,219	112							
	トン	474,926	107	497,494	105	125,133	108							
ライナー	千枚	62,150	88	42,485	68	15,413	173							
	トン	99	89	65	65	24	171							

※製品分類については、平成10年1月から発表 ※平成17年1~3月分より輸入分を含む

■寝たきりの人のおむつ代は、確定申告すると医療費控除が受けられます■

昭和63年1月からおむつ（寝たきり用）は、医療費控除の対象になっています。控除を受けるためには、①医師の発行する「おむつ使用証明書」②使用者の名前とおむつ代であると明記した「領収書」が必要です。詳しくは病院・医院、または税務署、市区町村役場にお問い合わせください。

紙おむつ・生理用品・衛生材料に関するご質問ご意見お問い合わせは下記へ

社団法人 **日本衛生材料工業連合会**

〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目10番1号 第一大門ビル7階
電話 03-6403-5351 FAX. 03-6403-5350